

特別展「比田井南谷～線の芸術～」 ご来館者の感想

○9月9日～19日分

臨書作品はクセがあまりなく、確実に芯のある線が好印象でした！！

スケッチ作品 67-3 とか、自由な線でユーモラスに書かれているのが楽しい感じでいいなと思いました。

NO. 14 作品 60-1 は、すなおでかわいい

とても素晴らしい特別展を拝見できて嬉しいです。筆一本で表現する事、線の動き、時間の流れ、空間、一本の線で表現する事、数々の作品にとっても感動しました。私も筆を持つ際には、自分を表現できるように心から向き合おうと強く思いました。ありがとうございます。

おもしろかったです。後期も来たいと思いました。

線の表現がおもしろかった。いろいろ研究されていたこともわかった。

展示空間中央に資料がたくさんあって良かったです。「電」のバリエーションは昔の「電」の字をモデルにしてるんですね。

多様な表現で見ごたえがありました。

筆路 美しい南谷の作品を直接拝見できてとても良かったです。

「線の芸術」は残念ながら私には理解しにくかったです。

絵の上手さに驚きました。(真ん中に展示されている作品たち)

小野道風について知ることができたのがとても良かったです。”

0.2mmのオリジナルフォント見えるのか？30なんておもしろい。桃紅もだが、少し難しい、私には

南谷の有名な作品から臨書作品まで一度に観られて、大変幸せでした。線に魅せられました。また来ます。ありがとうございました。

南谷先生の作品をこれだけ一度に観ることができ感動しました。時代が進んでいけばいくほど先生の作品はもっと多くの方に観ていただけるようになるのではないかな…そんな未来を予感します。

南谷先生の臨書作品好きです。

南谷の作品に出合って30年になります。多くの作品を鑑賞した後、電線のフォントを制作していた（精版）の仕事に改めて驚き感動しました。

素敵な書を見ることができ、嬉しく思います。絵もとても素敵で驚きました。ありがとうございました。

純粹に「線」のみを観る」という初体験でした。収筆から、“象の鼻息が吹き出す様な息吹”を感じたり、送筆部に樹木の節や水が見えるようで、とても“生命力”が響きました。

DVDはよかった。新境地の線でもって文字を、たとえば王羲之の再現をして欲しかった。

臨書をあの墨で書いてくれたら良かったのにと思いました。線を美術表現としたことは新しかったかもしれませんが、父からうけついで書を南谷はさらにどうしたかったのかと思ひ書の本来の道をもっとこだわってほしかったと感じました。

学校で文房四宝について学んできましたが、紙でなくても、墨でなくても、書表現することを実際に証明しており、すごいなと思ひました。

どの時代の作品も素晴らしく選ぶのは難しかったです。先生方の講演をお聞きし、大変刺激になりました。ありがとうございました。

筆の一本一本の毛の動線がわかって、色々なことが想像される。絵のようであり、字のようであり、一体となってせまってくるものがある。作者の心も伝わってくる、感激です。まさに線の芸術。

臨書に努めます。

自由な書き振りがすてきだと思ひました。

書に興味を最近持ちだしました。前衛書は今回はじめて見ました。書道展は何度か行ったことがあります。今回の会場に入り、流れている空気がまったくちがうと思ひました。たいくつではない書を見ることができました。

作品そのものだけでなく、南谷の残したスケッチも鑑賞することができて、より深く「線の芸術性」を実感できたと思ひます。

南谷の書業を数多く拝見できて感動です。

圧巻でした。

どの作品も線質がすばらしい。感動しました。

書の表現方法を試行錯誤された軌跡が少しでも分かって、有難かったです。

古典に立脚した確かな線質にしかあの「空」を支えることができない事は図録という二次元の媒体からは学びとることができない貴重な体験でした。後期も参ります。チョット遠いけど…

作品を作る（書く）ところを見ることが出来、とても貴重でありがたかったかったです。書いた筆の使い方が見るようにわかる作品も多く勉強になりました。小さな子どもたち、学生さんにもたくさん見てほしいなと思いました。

心線の表現に驚きました。古典を学んだ上での表現であることで納得。強い説得力を感じます。

みればみる程、作品のおもしろさに気づき引きこまれました。後期も楽しみです。

心線という言葉と作品を拝見して、心で感じる響きがありました。筆の動きは精神の集中にて運んで正直に素直に動かす事を求めておられたのだとだんだんと思えてきました。何度か足を運んで勉強させて頂きたく思います。感動と感謝で胸がいっぱいです。

参考になりました。臨書から創作への考えとか、とらわれることのない作風に感心した。南谷先生の仰る“線”が展覧会にて作品を拝見し、ビデオを拝見し、少しずつわかった様に思います。

作品点数も多く、非常に見ごたえがあった。当時の墨象、南谷の作品に対する批評などの資料もとてもおもしろかった。

古墨を混ぜた墨の独特の質感、とても興味深く拝見しました。まさかフォント制作までしていたとは！！ 南谷のイメージが随分変わりました。

線の濃淡 線の強弱 線の太い細い部分の所が参考になりました。

書が線の芸術だということを改めて感じさせられました。個人的には、書籍の題箋やフォントなど、日常目にするものやデザインなどの自然なタッチで書かれたものに魅かれました。

線（墨でかかっている部分）に、宇宙を内包しているかのように感じたので。

線の動きがたのしかったです。

筆一本で一氣に書いたとは思えないような作品が多く、とても面白かったです。

筆の軌跡の迫力が目を引いた。

東京からまいりましたが一同にたくさん作品を生で見られて感激いたしました。墨色の本物の美しさ、線の強さ、書かれていない白の美しさに感度しました。そして本当に楽し

そうでした!!!!

紙、すみ、筆づかい 探求しつくしての作品に、たのしく観賞させていただきました。

実作を拝見して満足しました。現代書の歴史（書道史）の中で一番に（主役的）評価されていい人をもっと書道（界）は認識すべきと思う。

伺った甲斐が有りました。素晴らしい展覧会でした。

スケッチ、書筒等の公刊を待望しております

心線の作品にも、濃淡、余白のとり方などの空間性は、やはり書にも通じるものがあると実際に見ると感じました。

今まで多種の南谷作品にふれられず理解が深まらなかったところを少し埋めていただけました。「書は線なり」同感です。

比田井南谷さまの書に対する心と人格、そして、ご両親さまから受けられた多くのものを全部自分の力として、日本から世界へ発信して、それを美術館に残して頂く力は素晴らしいです。そして、語学も学び書が線までとされたことです。

高校の選択芸術科目で書道を選択。藤田東谷先生に三年間教えてもらいました。書の楽しさを教えていただきました。線が活きているかどうかが問題だと。体全体を使って書けと。梓紙からはみ出るのは勢いだから気にするなど。南谷の線質に共通点がありますね。26 作品 68—1 は何度も目にした彼の代表的作品。

法要で岐阜に来たため立ち寄りしました。前衛書はよく分かりませんが、線が伸び伸びとしてとても気持ちよさそうに書かれているなど思いました。

年賀状がよかった。作品数が多くて見ごたえがあった。

墨象の先駆者として、世界に書を広めようとするバイタリティーに感動しました。

他の美術館に貼ってあったポスターを見て「電のヴァリエーション」に心をひかれて来ました。書道は鑑賞が難しいと思っていましたが、線の芸術として素直に見ると、心が静かになり言葉では表せませんがとても素晴らしいと感じました。この様な表現があることに新鮮な気持ちがしました。

白の空間の輝き。

字が、とてもふしぎなのが多くて、絵のような作品があつて、これもしゅうじなの？とふしぎでした。

画期的な展覧会だと思う。